

# C言語によるプログラミング(2) ——レコード、バルク・データ

David Zhang

第6章に引き続き、C言語インターフェースを使ったデータベース・プログラミングの実例について解説する。ここでは、レコードに対する操作を解説したあと、データのロック、データの整合性を保証するためのトランザクション処理の実例、ストリーミング・データなどを扱えるバルク・データの扱いについて解説する。(編集部)

本稿では、レコードに対する操作、ロック、トランザクション、表現式の詳細、バルク・データの扱いについて解説します。

## 1 レコードに対する操作

### レコードの削除

mrdel 関数と mrtdel 関数は、引数にレコード記述子を指定し、レコードを削除します。mrdel 関数は、削除に失敗した場合に呼び出しプログラムを終了します。mrtdel 関数は、削除に失敗した場合に false を、成功した場合に true を返します。通常、レコードは削除前に検索されます。対象レコードは、mrgetbegin 関数と検索条件関数により初期化され、mrget 関数で特定されます。すべての削除が完了した場合には、Empress の内部バッファからファイルへ書き込むために、mrdelend 関数を呼び出す必要があります。

レコードを削除する一般的な形式を以下に示します。

```
mrdel (record_desc);
flag = mrtdel (record_desc);
mrdelend (record_desc);
```

リスト1は1992年5月より前に作成されたレコードを削除します。

### レコードの更新

レコードを更新するには、二つのレコード記述子を取得する必要があります。最初のレコード記述子(更新前用)は、mrmkrec 関数によって取得します。次のレコード記述子(更新後用)は、mrcopyr 関数によって、更新前用レコード記述子をコピーして作成します。この関数は、引数に二つのレコード記述子を指定します。更新後用のレコード内のフィールド値は、レコードの追加処理と同じように、mrputvs 関数、mrputvi 関数などを使用して変更します。レコードの更新は、mrput 関数を呼び出して行われます。この関数は、引数に更新前、更新後のレコード記述子を指定します。

更新が失敗する可能性がある場合(ユニークなフィールドに

重複値を入力したり、ロックがかけられる場合)には、mrput 関数を使用してください。この関数は、失敗したときに false を、成功したときに true を返します。

これらの関数の一般的な形式を以下に示します。

```
mrcopyr (new_rec_desc, old_rec_desc);
mrput (new_rec_desc, old_rec_desc);
flag = mrput (new_rec_desc, old_rec_desc);
```

リスト2はloansテーブル内のローンについて2%の利子を計算し、借りている額と利子を表示します。また、現在額に利子を追加し、新しい合計を表示し、レコードを更新します。

### 後で使用するレコードの保存

アプリケーション・プログラムでは、異なる箇所でのレコードに異なった操作を行わなくてはならない場合があります。

リスト1 レコードを削除する(delete.c)

```
#include <mssc.h>
#define DATABASE "repairs"
msmain ()
{
    addr    loans_tabdesc, date_attrdesc,
           loans_recdesc;
    addr    qual, retrieve_desc;
    char*   date_value;

    loans_tabdesc = mropen (DATABASE, "loans", 'u');
    loans_recdesc = mrmkrec (loans_tabdesc);
    date_attrdesc = mrngeta (loans_tabdesc, "date");
    qual = mrqcon ("<", date_attrdesc,
                  mrcvt (date_attrdesc, "1 May 1992"));

    retrieve_desc = mrgetbegin(qual, loans_recdesc, ADDRNIL);
    while (mrget (retrieve_desc))
        mrdel (loans_recdesc);

    mrgetend (retrieve_desc);
    mrdelend (loans_recdesc);
    mrfrec (loans_recdesc);
    mrclose (loans_tabdesc);
}
```

日付との  
比較

## リスト2 レコードの更新(interest.c)

```
#include <mscc.h>
#define DATABASE "repairs"
extern double dollcvrt ();
msmain ()
{
    addr    loans_tabdesc, pers_tabdesc,
           loans_recdesc, pers_recdesc,
           new_recdesc;
    addr    pname_attrdesc, lname_attrdesc,
           date_attrdesc, amount_attrdesc;
    addr    qual, p_retrieve_desc,
           l_retrieve_desc;
    double  amount, sum, newamount, interest;
    char*   name;
    char*   pname_value;
    char*   date_value;
    char*   amount_value;
    char    value[20];

    loans_tabdesc = mropen (DATABASE, "loans", 'u');
    pers_tabdesc = mropen (DATABASE, "personnel", 'r');

    loans_recdesc = mrmkrec (loans_tabdesc);
    new_recdesc = mrmkrec (loans_tabdesc);
    pers_recdesc = mrmkrec (pers_tabdesc);

    pname_attrdesc = mrngeta (pers_tabdesc, "name");
    lname_attrdesc = mrngeta (loans_tabdesc, "name");
    amount_attrdesc = mrngeta (loans_tabdesc, "amount");
    date_attrdesc = mrngeta (loans_tabdesc, "date");

    amount_value = mrspv (amount_attrdesc);
    pname_value = mrspv (pname_attrdesc);
    date_value = mrspv (date_attrdesc);

    p_retrieve_desc = mrgetbegin (ADDRNIL, pers_recdesc,
                                  ADDRNIL);
    while (mrget (p_retrieve_desc))
    {
        mrcopyv (pers_recdesc, pname_attrdesc, pname_value);

        printf ("YnYnMonthly Statement for %s:YnYn",
                pname_value);
        printf ("Loan    Date Made    Interest TotalYn");

        sum = 0;
        qual = mrqcon ("=", lname_attrdesc,
                      mrcvt (lname_attrdesc, pname_value));
        l_retrieve_desc = mrgetbegin (qual, loans_recdesc,
                                      ADDRNIL);
        while (mrget (l_retrieve_desc))
        {
            mrcopyv (loans_recdesc, amount_attrdesc,
                    amount_value);

            mrcopyv (loans_recdesc, date_attrdesc,
                    date_value);
            amount = dollcvrt (amount_value);
            interest = amount * 0.02;
            newamount = amount + interest;
            sum = sum + newamount;
            printf ("$$-6.2f %s    $$-6.2f $$-6.2fYn",
                    amount, date_value, interest, newamount);

            mrcopyr (new_recdesc, loans_recdesc);

            sprintf (value, "$%-6.2f", newamount);
            if (mrputvs (new_recdesc, amount_attrdesc,
                        value))
                mrput (new_recdesc, loans_recdesc);
            else
                fprintf (stderr, "Cannot convertY
                          newamount '$%-6.2f'YnY
                          Update not done for %s %sY
                          %%-6.2fYn", newamount,
                          pname_value, date_value, amount);
        }

        if (sum > 0)
            printf ("YnTotal now owing: $$-6.2fYn", sum);
        else
            printf ("YnNo loans outstanding.Yn");
    }

    mrfree (pname_value);
    mrfree (date_value);
    mrfree (amount_value);
    mrfrec (loans_recdesc);
    mrfrec (new_recdesc);
    mrfrec (pers_recdesc);

    mrclose (loans_tabdesc);
    mrclose (pers_tabdesc);
}

/* strip $ , * space from dollar amounts */
double dollcvrt (char* string)
{
    extern double atof ();
    char    c, buffer [20];
    char*   buf_ptr;

    for (buf_ptr = buffer; (c = *string++) != 'Y0'; )
        if (c != '$' && c != '*' && c != ' ' && c != ',')
            *buf_ptr++ = c;
    *buf_ptr = 'Y0';
    return (atof (buffer));
}
```

一度レコードを検索したら、以下に示すことが行えます。

- 直接操作できるように、そのレコードをメモリに保存する
- 以降の検索で、検索条件を構築しなくてもよいように、そのレコードへのポインタを保存する

レコード値が変更された場合、変更前の検索条件ではレコードを再検索できないので、レコードまたはポインタを保存することが非常に役に立ちます。

### メモリへのレコード保存

レコードをメモリ内に保存する際には、そのレコードのレコード記述子をコピーすることになります。この場合、スペースを使い過ぎないように、数レコードにしぼって実行してください。レコードがロック状態で保たれている場合にも、メモリ

へのレコード保存は有用です。

レコード記述子をコピーするには、mrmkrec 関数を呼び出して新しいレコード記述子を取得し、レコードの更新と同じように、mrcopyr 関数によって新しいレコード記述子にコピーします。これによってレコードがメモリ内にコピーされ、テーブルから再検索することなく、いつでもアクセス可能となります(通常は、検索ループの中で現在のレコードが後で必要になると判断された場合に実行される)。保存されたレコード記述子は、後のプログラム内でいつでも、mrcopyv 関数などの検索関数の一つに受け渡すことが可能です。レコードに対する処理が完了したら、mrfrec 関数を使用してスペースを解放してください。